

たまねぎレポート【356号】



平成29年6月27日

阪南青果株式会社

社内報

5月の天候は、北・東・西日本で気温はかなり高かった。平均気温は北日本で1.6℃、東日本で1.4℃、西日本で1℃高かった。降水量は、東日本と西日本の日本海側でかなり少なく、沖縄以外は平年比50%以下の地域が多かった。日照時間は、東日本の日本海側と西日本でかなり多かった。6月は梅雨に入ってから西日本は降雨が少なく、早魃傾向で田植えが遅れ気味である。他方、北海道地方は降雨が多く、農作物の生育に湿害が心配されている。

気象庁の7～9月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北・東・西日本で高い確率50%、沖縄・奄美で60%。降水量は、東・西日本で平年並み亦は多い確率ともに40%。月別予報は次の通り。

7月、北日本と東日本の日本海側では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。東日本の太平洋側と西日本では、期間の前半は平年にくらべ曇りや雨の日が多く、後半は晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。気温は、北日本で平年並み亦は高く、沖縄・奄美は高い。降水量は、東・西日

本で平年並み亦は多い。

8月、北日本では、天気は数日の周期で変わる。東・西日本と沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多い。気温は、全国的に高い。降水量は、東・西日本と沖縄・奄美で平年並み亦は少ない。

9月、北・東日本では、天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ曇りや雨の日が多い。西日本の日本海側では天気は数日の周期で変わり、太平洋側では平年同様晴れの日が多い。沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が少ない。気温は、全国的に平年に比べ高い。降水量は、北・東日本と沖縄・奄美で平年並み亦は多い。

需要(市場)の動き

野菜の概況

5月の主要5大都市中央卸売市場の野菜の入荷は、いずれの市場も前年を上回った。平均単価はすべての市場で、前年比10%程度値下がりした。

市場別に入荷量と価格は、札幌市場の入荷は前年比108%、平均単価はkg¥221前年比93%。東京市場は前年比107%の入荷で、平均価格はkg¥238前年比92%。名古屋市場は前年比104%の入荷で、平均単価はkg¥227前年比94%。大阪本場の入荷は前年比103%で、平均単価はkg¥228前年比91%。福岡市場の入荷は前年比108%、平均単価はkg¥163前年比89%となっている。

玉葱の販売量は大阪本場以外は前年比2桁増であったが、平均単価はいずれの市場も前年比2桁高であった。府県産の出回りが本格化したが、産地では昨年の品薄高意識が離れず、産地主導の相場展開となった。市場別では、札幌市場の販売量は4,070トン前年比119%、平均単価はkg¥100前年比122%。東京市場は14,172トンの販売で前年比122%、平均単価はkg¥104前年比113%。名古屋市場の販売量は6,

389トン前年比112%、平均単価はkg¥81前年比108%。大阪本場の販売量は3,908トン前年比95%、平均単価はkg¥96前年比102%。福岡市場の販売量は3,844トン前年比120%、平均単価はkg¥107前年比110%となっている。

日本農業新聞社の独自集計に依ると、全国主要7都市の代表荷受7社の、主要野菜14品目の5月の販売量は、97,525トン前年比107%(前月比109%)。平均単価はkg¥142前年比87%(前月比86%)と、値下がりしている。入荷が前年比増であった品目は、サトイモが前年比133%、タマネギが124%、ネギが116%、など12品目(前月は8品目)。前年比減となった品目は、レタスが前年比94%、トマトが98%の2品目(前月は6品目)だけとなっている。価格が前年比高であったのは、ハクサイの前年比102%の1品目(前月は6品目)のみ。前年比安であった品目はサトイモが前年比70%、ネギが74%、ニンジンが76%、バレイショが77%など12品目(前月は9品目)に増加している。

東京都中央卸売市場の5月の野菜の入荷は、144,436トン前年比107%(前月比111%)であった。旬別では上旬が前年比109%、中旬が116%、下旬は97%となっている。主要品目で前年比増となった品目は、タマネギが前年比122%となったのを始め、トマトを除く14品目すべてが前年を上回った。トマトは前年比2%減の98%となっている。平均単価はkg¥238前年比92%(前月比92%)で、旬別では上旬¥245(前年比94%)、中旬¥234(前年比92%)、下旬¥235(前年比90%)で軟調な推移となっている。前年比高となっている品目は、タマネギの113%、ハクサイの107%の2品目だけで、前年比安は、ネギ・バレイショの78%を始め13品目が前年を下回っている。

東京都中央卸売市場の5月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	144,436	107.1	111.5	238	91.8	91.5
た ま ね ぎ	14,172	122.1	116.6	104	112.7	79.4
キ ャ ベ ツ	19,052	109.8	97.4	90	90.6	76.3
ば れ い し ょ	10,757	117.8	122.9	165	78.0	74.0
だ い こ ん	10,434	110.2	91.7	91	95.1	96.8
ト マ ト	10,263	98.3	125.6	280	95.1	83.3
き ゆ う り	9,282	103.2	132.3	233	91.6	83.5
に ん じ ん	9,126	103.6	109.3	141	79.9	83.9
レ タ ス	8,298	100.8	112.4	142	83.8	74.0
は く さ い	7,005	119.1	113.9	64	107.0	45.4
ね ぎ	3,743	104.8	101.4	384	77.5	116.7
か ぼ ち ゃ	2,542	95.6	124.7	190	107.1	79.2
な が い も	757	91.9	104.6	522	129.2	101.0
れ ん こ ん	254	82.5	72.2	915	114.9	106.9
に ん に く	379	94.5	141.4	1,057	116.7	90.4

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の5月の玉葱の入荷は、14,172トン前年比122%（前月比113%）で、北海物の延長販売と、佐賀物の出荷が本格化したことが入荷量を押し上げた。主力の佐賀物の入荷は8,045トン前年比150%、占有率は57%で前年比11ポイントアップ。北海物の入荷は2,471トン前年比135%、占有率は17%で前年比1ポイントダウン。千葉物は895トンの入荷で前年比94%、占有率は6%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg¥104前

年比113%(前月比79%)で、好調に推移した。産地別の月平均価格は、佐賀物がkg¥101で前年比128%、北海物はkg¥116前年比135%、千葉物はkg¥84で前年比105%となっている。

6月に入り、佐賀物の中晩生中心の販売となったが、JAの指値が高く、荷動きは鈍化傾向となる。栃木物も連日入荷となったものの、佐賀物同様の高値を要請され、売れ行きが低迷した。愛知物は、2L主力の入荷でそれなりに捌けた。月半ばからは、佐賀物の増加に加え、香川、栃木、千葉なども前年を上回る入荷が続いたが、量販店の仕入れ意欲が弱く、荷凭れ感が強まった。此処に来て、佐賀物は、除湿乾燥処理品が入荷しているが、産地の指示価格が高く、引きは弱い。滞貨増となった千葉物などを安売りしたことで、産地別の価格差が拡大している。上旬の入荷は4,117トン前年比138%、平均価格はkg¥104前年比73%。中旬の入荷は3,400トン前年比127%、平均価格はkg¥99前年比66%と値下がりしている。佐賀物の入荷は前年比倍増しているが、兵庫物は3割前後の減少となっている。また、荷受け各社が販売期間の延長を要請した北海物も倍増しているが、客足が遠のき販売に苦労している。

名古屋市場

名古屋中央卸売市場の5月の玉葱の入荷量は、6,389トン前年比112%(前月比104%)で順調であった。地場産地の出荷が最盛期を迎え、愛知物主力の販売となった。愛知物の入荷は3,209トン前年比104%、占有率50%で前年比4ポイントダウン。北海物は2,695トンの入荷で前年比120%、占有率は42%で前年比3ポイントアップ。兵庫物は342トンの入荷で前年比143%、占有率は5%で前年比1ポイントアップ。平均単価はkg¥81前年比108%(前月比79%)で好調に推移した。産地別では、愛知物はkg¥89で前年比116%。北海物はkg¥64で前年比103%。兵庫物はkg¥112で前年比81%となっている。

6月に入ってから、愛知物の入荷は順調で、品種は中生系に移行し、球流れはやや小粒化し2Lが30%前後、L+M=70%前後となっている。淡路物は

日量20～30トンの入荷だが、愛知物に比べ割高のため、日々売れ残りが発生している。総じては引き合い弱く、荷動きは鈍い。現在、愛知物は終盤を迎え入荷は日々減少傾向にあり、7月半ばまでには終了する予想である。淡路物は、愛知物に比べ20kg ¥900～800の価格差があり、高値のため動きが低迷しているものの、7月からは淡路物依存の販売となるため、産地の希望価格に近付けるよう努力している。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の5月の玉葱の販売量は、3,908トン前年比95%（前月比103%）で、北海物が入荷減と、兵庫（淡路）物の出荷が後ズレしたことで前年を下回った。主力の淡路物が入荷は、1,642トン前年比89%、占有率は42%で前年比3ポイントダウン。佐賀物は病害回避で入荷は1,390トン前年比146%、占有率は36%で前年比13ポイントアップ。北海物が入荷は421トン前年比38%、占有率は11%で前年比16ポイントダウン。平均価格はkg ¥96前年比102%（前月比76%）で、好調に推移した。産地別では、兵庫物はkg ¥105で前年比92%、佐賀物はkg ¥95で前年比114%、北海物はkg ¥79前年比108%となっている。佐賀物は前年度は病害による品質劣化で安値となったが、今年は正常に復帰し平均価格は回復した。

6月に入り、兵庫（淡路）物と佐賀物の価格差が開き、佐賀物が入荷が減少傾向となっている。仲卸の間では先安ムードが漂い、様子見の買い姿勢が強まり、相場は日々軟調傾向となっている。いずれの産地も中晩生に移行し、球流れは小粒化し2Lの比率が低下、Mの比率が上昇し、Mの動きが鈍く荷凭れして、Mを中心に値下がりにしている。また、銘柄別の価格差が大きくなり、特に淡路物は10kgで ¥400～300の価格差が発生している。上旬の入荷は1,105トン前年比110%、平均価格はkg ¥98前年比62%。中旬の入荷は1,363トン前年比169%、平均価格はkg ¥86前年比54%となっている。産地別の入荷は、佐賀物が前年比180%、兵庫物が前年比85%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の5月の玉葱の販売量は、3,844トン前年比120%（前月比106%）で、順調であった。主力の佐賀、長崎、北海道物のいずれも前年比増であった。産地別では、佐賀物の入荷は2,089トン前年比120%、占有率は54%で前年比と同じ。北海物は784トンの入荷で前年比136%、占有率は20%で前年比2ポイントアップ。長崎物は542トンの入荷で前年比143%、占有率は14%で1ポイントアップ。平均単価はkg¥107前年比110%（前月比95%）で好調に推移した。産地別では、佐賀物はkg¥110で前年比117%。北海物はkg¥105で前年比127%。長崎物はkg¥103で前年比105%であった。

6月に入り、佐賀物を中心に長崎、福岡物を併売しているが、需給が緩み荷動きは鈍化傾向が続いているものの、産地は強気で指値が高く厳しい販売環境が続いている。特にMサイズが低迷し苦戦している。福岡物は、地産地消で学校給食に向けている。此処に来て、入荷は日々減少傾向で助かっている。2L、Lはそれなりに動いているが、M、Sが在庫となり苦戦している。1日～20日までの販売量は2,319トン前年比139%、平均価格はkg¥110前年比85%で荷動きは鈍い。

6月26日(月)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷165トン、弱保合

北海道 20kgDB2L¥2,200～1080、L大¥2,450～1070、L¥2,450～1,070。

佐賀 10kgDB2L¥1,000～ L¥1,200～ M¥700～

佐賀 20kgDB2L¥2,200～2,000、L¥3,000～2,350、M¥1,800～1,500。

栃木 20kgNT2L¥1,800～1,500、L¥1,700～1,500、M¥1,600～1,450、
M¥1,600～1,450、S¥700～600。

大阪 20kgDB2L¥1,500～ L¥1,500～ M¥1,180～

【太田市場】 入荷175トン、保合

佐 賀 20kgDB2L¥1,800～1,700、L¥2,200～2,000、M¥1,800～1,500。

愛 知 10kgNT2L¥1,000 ～ 900、L¥1,000 ～900、M¥800 ～ 700。

栃 木 20kgNT2L¥1,600～1,500、L¥1,600～1,500、M¥1,400～1,300。

千 葉 10kgNT2L¥700 ～ 500、L¥700 ～ 400、M¥600 ～ 400。

群 馬 20kgNT2L¥1,600～1,500、L¥1,600～1,500、M¥1,400～1,300。

【名古屋北部】 入荷68トン、強保合

愛 知 20kgNT2L¥1,600～1,500、L¥1,600～1,500、M¥1,300～1,200。

兵 庫 20kgDB2L¥2,200～2,100、L¥2,500～2,400、M¥1,900～1,800。

【大阪本場】 入荷 67トン、強保合

兵 庫 10kgDB2L¥1,400～1,200、L¥1,400～1,100、M¥1,100～ 800。

兵 庫 20kgDB2L¥2,600～2,500、L¥2,600～2,500、M¥2,000～1,800。

佐 賀 10kgDB2L¥1,000～ 900、L¥1,100～1,000、M¥800 ～ 650。

長 崎 10kgDB2L¥ 900 ～ L¥1,000～ M¥ 700 ～

【福岡市場】 入荷58トン、弱保合

佐 賀 10kgDB2L¥1,300～1,000、L¥1,300～1,000、M¥ 800 ～ 500。

長 崎 10kgDB2L¥1,000～ 800、L¥1,000～ 800、M¥ 600 ～ 500。

福 岡 10kgDB2L¥1,300～1,000、L¥1,300～1,000、M¥ 700 ～ 500。

供給(産地)の動き

府県産地の中晩生は、昨年のようなべト病の被害はなく、いずれの産地も平年作は確保出来たことで、産地の在庫は前年を大幅に上回っている。西日本の産地では、現在農繁期(田植期)であることや、昨年の夏高相場を意識して、先高期待ムードに支配され、いずれの産地も出荷は後ズレ傾向にある。出荷は、中晩性に移行して貯蔵性品種となったことで、出荷調整が容易になり、いずれの産地も出荷は先送りムードとなっている。作付は、大産地は減反か現状維持が精々だが、全国各地で新規栽培を試みる生産者が増加し、富山等では産地

形成が進んでいる。農水省では、30年度は11,000ha今年度比1%程度の増反を指標している模様。

北海道産地では、全道的に玉葱栽培に意欲的で増反傾向が続き、従来の秋冬期の販売では、供給過剰を招くことや、市場荷受けの要望もあり、販売期間を5~6月まで延長する対策を試行している。然し、府県産の最盛期に当たる5~6月期の販売は、技術的に品質管理が出来ても、府県産よりも高値で販売するには、かなり無理がある。昨年度は、府県産地が大病害の被害を受け、大幅な減産となった事で、需給が逼迫したが、今年は減反ながら需給緩和で荷凭れ傾向にある。農水省では、此の先北海産の作付を10%程度の減反を指標し、年間の需給バランスを調整したい模様だが、生産者事情から減反は難しい環境にある。今シーズンも極早生が200ha前後の増反となっており、8月の早や出し出荷は大幅増となりそうである。

府県産地

佐賀の中心産地では、水不足で田植えが後ズレして、出荷は一服状態にある。産地相場は昨年の尻上がりから、今年は尻下がり状態にあり、20kg裸値2L¥950(前年¥2,600)、L¥1,250(〃¥2,600)、M¥800(〃¥2,300)。前年に比べ半値以下で生産者の表情は暗い。6月末の産地在庫は、一昨年よりは少ないものの昨年に比べるとかなり多い。指標となる短期貯蔵の除湿乾燥庫の入庫は、JA、商系とも前年に比べ倍増している。JAでは夏相場が期待薄と見て、既に貯蔵品の出荷が始まっている。長期貯蔵となる小屋吊りは年々減少傾向で、今年も例年よりは少ない。品質的には昨年はもとより、一昨年にも比べても良好である。

兵庫の淡路島でも、田植えは後ズレしている。完熟収穫を念頭に、中晩生の収穫を遅らせたことも影響している。通常、6月収穫の中晩生は収穫2週間前の適雨で球肥大が進み完熟するが、今年は5月末の高温で生育が停滞し、総じては平年作で球肥大が進まず、2Lが少なくやや小粒傾向だが球締りは良い。亦、作柄は例年になく圃場格差が大きい。昨年度の夏高相場が頭から離れず、

集荷・ストック用容器のポリコンテナが不足傾向で、出荷は収穫の遅れと相俟って後ズレしており、生産者の短期貯蔵は昨年と比べるとかなり多い。JAでは、鉄製の大型コンテナと送風機を組み合わせた乾燥設備の新設等もあり、貯蔵物の在庫はかなり多い。風物詩とも言える自然乾燥の小屋吊り貯蔵は、年々減少傾向で、今年も前年並みにとどまっている。6月末の産地在庫は前年比2割程度多いと見ている。

北海道産地

北海道では、いずれの地域も定植が前進化し、活着も初期生育も順調に推移したが、此処に来て生育に圃場格差出ている。前週道内産地を一回りしたが、6月は降雨が多く、草丈の伸びは順調だし、生葉数も6～7枚で申し分ないが、全域で部分的な湿害(水やけ)が目につく。根の発育に難があり、葉先が変色している箇所がある。7月の天候が高温・早魃傾向だと生育に大きく影響する。産地の誰もが低温、適雨を祈っている。

今年の作付は、12,856ha前年比1%増だが、極早生が758haで前年比179ha増加している。従って8月の早出し出荷は、前年比10,000トン前後増加すると予想されている。

外国産地

5月の輸入は、速報値で、28,741トン前年比149%で予想を上回る大幅な増加となった。前年同期が府県産地の病害で、品不足に見舞われたことで、今年の輸入物の契約を増量したユーザーが多かった。また、前年と異なり、相手国では需給が緩み、マーケットが不振で輸出が積極化したことで、輸入量は増加し、現在も前年を上回る入荷が続いている。主な国別の輸入量では、中国が19,578トン前年比129%。ニュージーランドが7,976トン前年比243%。オーストラリアが998トン前年139%。となっている。6月も前年を上回る予想。

中国、現在の主産地は沿海の江蘇省、山東省である。作柄は江蘇省平年作、山東省は豊作と聞いているが、現地価格は値下がりしている。韓国では早魃でマーケットが急騰している情報が伝わり、韓国向けが期待出来ることで、現在

価格は底値圏にあると見ている。現在、日本向け価格は、ムキ玉20kg・C&F・\$5.00～5.50の水準である。

ニュージーランド、今シーズンの輸出は終盤を迎えているが、6月17日現在の日本向けの船積みの集計は23,088トンと報告されている。新規契約は殆どないが、直近の日本向け価格は、20kg・C&F・¥1,100～1,050の水準で軟化傾向である。

7月の市況見通し

6月市況は、府県産地の出荷が後ズレ傾向となったことで、軟調を辿りながらも好水準を維持した。7月は盛夏を迎え消費が減退する時期となるので、出荷調整をしない限り、需給バランスは崩れやすい。5～6月は産地主導の市況展開となったが、北海物の早や出し出荷が増加するなかで、出荷の先送りは、得策とは言えない。府県在庫と北海物の生育を凝視しながら、策を講じることが肝要である。需給は天候に左右されるが、7月市況は、弱含みの展開で、産地・銘柄格差が大きい为中心相場は、20kgL¥2,200～2,000を予想。(了)